

車椅子簡易固定標準化コンソーシアムが 「車椅子簡易固定システムガイドライン」を改訂

2022年4月に設立、2026年現在、車椅子、車いす移動車、路線バス製造メーカー14社と関係2団体により活動している「車椅子簡易固定標準化コンソーシアム」は、設立4年目になる4月16日に第8回総会を開催し、2023年4月に公開した「車椅子簡易固定システムガイドライン」を改訂したことをお知らせします。

<車椅子簡易固定システムガイドラインについて>

車椅子簡易固定標準化コンソーシアムでは、経済産業省からの委託により一般社団法人 日本福祉用具・生活支援用具協会が運営する「ワンタッチ固定機器及び対応車椅子に関するJIS開発」を支援しつつ、規格化で得られる安全性の担保などの早期実現のため、規格が制定されるまでの期間、対応商品の開発並びに市場投入時の指針としていただくため、23年4月にコンソーシアム提唱のワンタッチ固定機器及び対応車椅子の概要を「車椅子簡易固定システム*1ガイドライン」として公開しました。

今回の改訂は、令和5年度から3ヵ年に亘った上記JIS開発が、車載車椅子JIS原案を完成して終了したことを受け、それに沿って一部修正*2を織込むものです。(ガイドラインは別紙として添付)

*1 車椅子簡易固定標準化コンソーシアムでは「ワンタッチ固定機器及び対応車椅子」を総称して、「車椅子簡易固定システム」と呼称します。

*2 主な変更点は車椅子の開発時の参考用として静的試験法を追加。基本的な部分の変更はありません。

<車椅子簡易固定標準化コンソーシアムについて>

車椅子・車いす移動車・バスを開発製造するメーカー等が協力し、車椅子簡易固定システム対応機器類を極力早期に開発、市場投入が出来るよう、またより多くのご利用者様にこの新しい仕組みとそのメリットを知っていただけるよう、連携活動するためのプラットフォームです。

[参加社]

いすゞ自動車株式会社、株式会社カワムラサイクル、ジェイ・バス株式会社、スズキ株式会社
ダイハツ工業株式会社、トヨタ自動車株式会社、日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社
日進医療器株式会社、日野自動車株式会社、本田技研工業株式会社、マツダ株式会社、
株式会社マツダE&T、株式会社松永製作所、株式会社ミキ (50音順)

[参加関係団体]

(一社)日本自動車工業会大型車部会バス分科会、(一社)日本福祉車輛協会

<本件に関する問合せ先>

車椅子簡易固定標準化コンソーシアム事務局

一般社団法人 日本福祉車輛協会 顧問 太田 吉彦(おた よしひこ)

e-mail : oota_consortium@jwva.net

以上

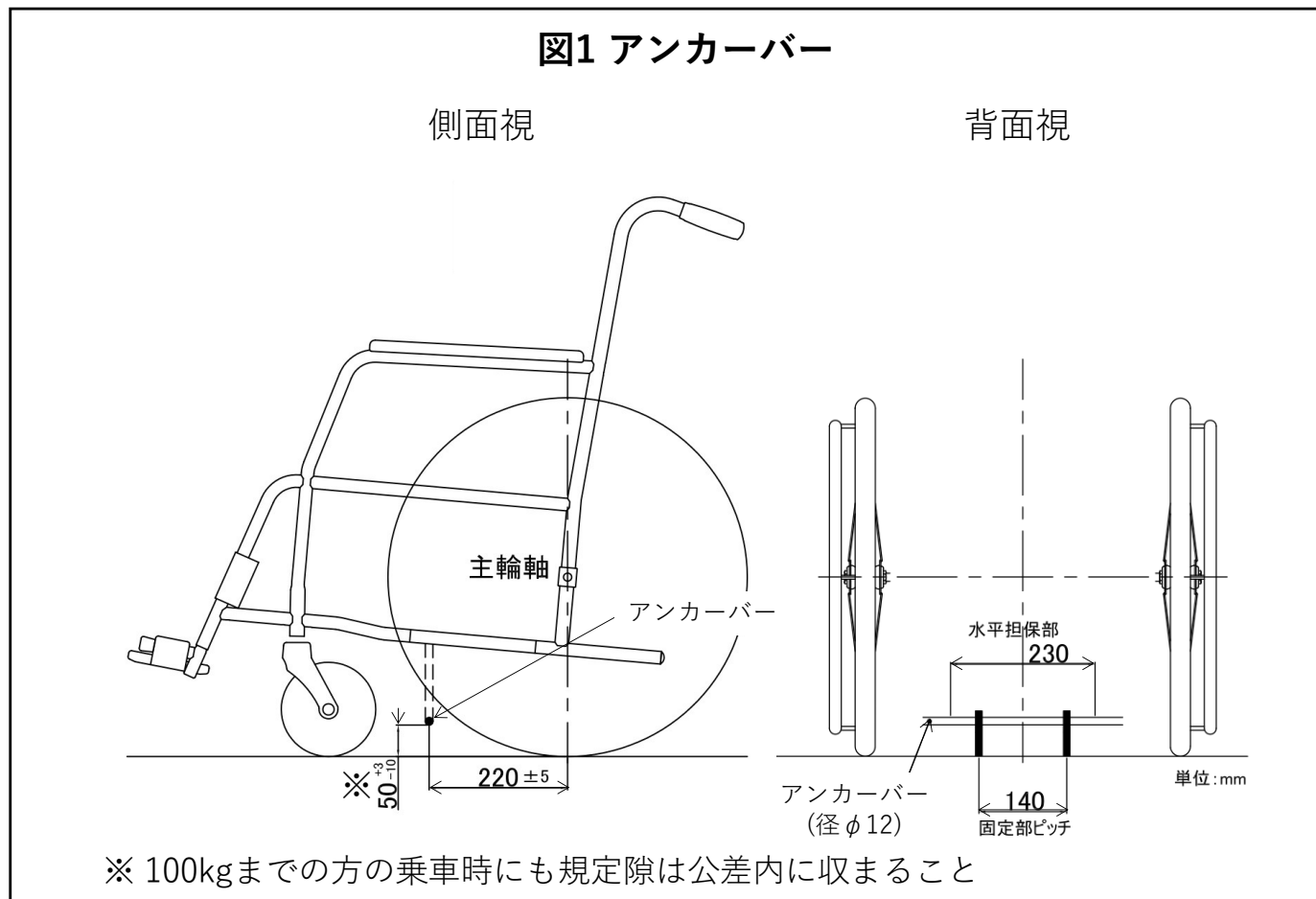
車椅子簡易固定システムガイドライン (2026年4月28日改訂版)

(1) 概要

- ・ガイドラインは「車椅子簡易固定システム」について、JIS等の公的規格化までの期間、各社の開発に活用いただき、早期の社会普及を目指すため、車椅子簡易固定標準化コンソーシアムが制定する。
- ・「車椅子簡易固定システム」は車両内で車椅子を固定するためのアンカーバーを車椅子に設定し、アンカーバーを車両側の固定装置で自動固定*するシステムである。
 - *車両の車椅子乗車用ウインチ等を利用して固定する形式
(以降、ウインチ併用固定という)も含む
- ・ガイドラインは車椅子のアンカーバーを中心に規定し、規定にない事項については、車椅子・車両製造者にて適正に対応するものとする。

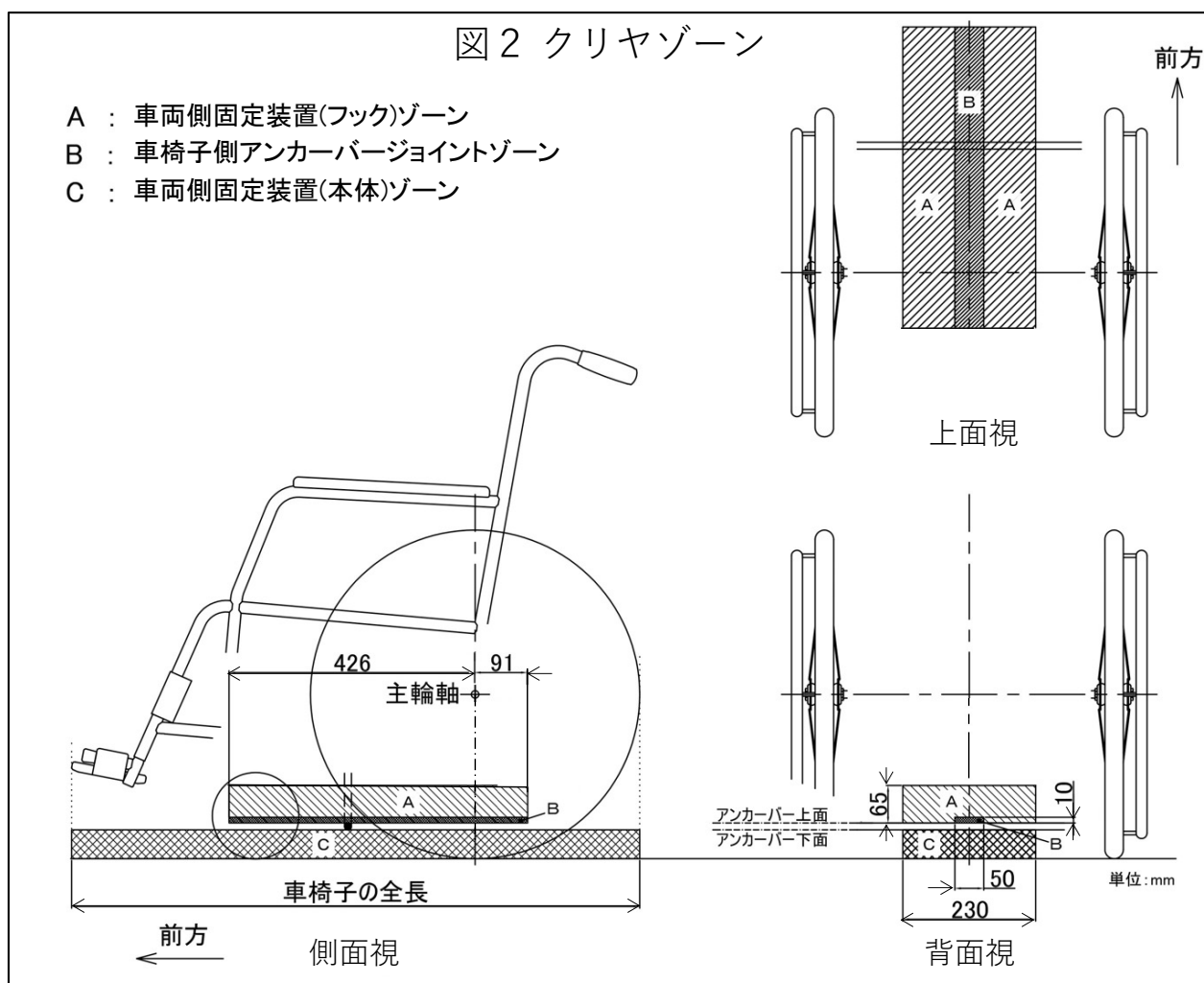
(2) アンカーバー規定

- ・車両内で車椅子を固定するためのアンカーバーを図1の通り定める。
- ・体重23kg以上の大人用で、車椅子重量35kg以下の手動車椅子(簡易電動式を含む)に設定できる。
- ・アンカーバーの材質、車椅子への取付方法や、折畳み式車椅子のためのアンカーバー対応方法は規定しない。



(3) クリヤゾーン

- ・ 図2は、車両側固定装置又は車椅子折畳み機構に使うゾーンを示す。各々、構造物の侵入を避けること。



(4) 性能要件

- ・ ISOの車載車椅子規格7176-19 (主に48km/h正面衝突模擬試験)への適合を考慮すること。
- ・ なお、コンソーシアムで正面衝突模擬試験時の車椅子への負荷を再現する静的試験法(次ページ参照)を開発済みであり、ガイドライン対応車椅子開発時の事前性能確認等に利用できる。

(5) ガイドライン準拠品の表示

- ・ 商品カタログや取扱説明書等に、車椅子簡易固定標準化コンソーシアムガイドライン準拠品である旨を明示すること。

< 記載例 >

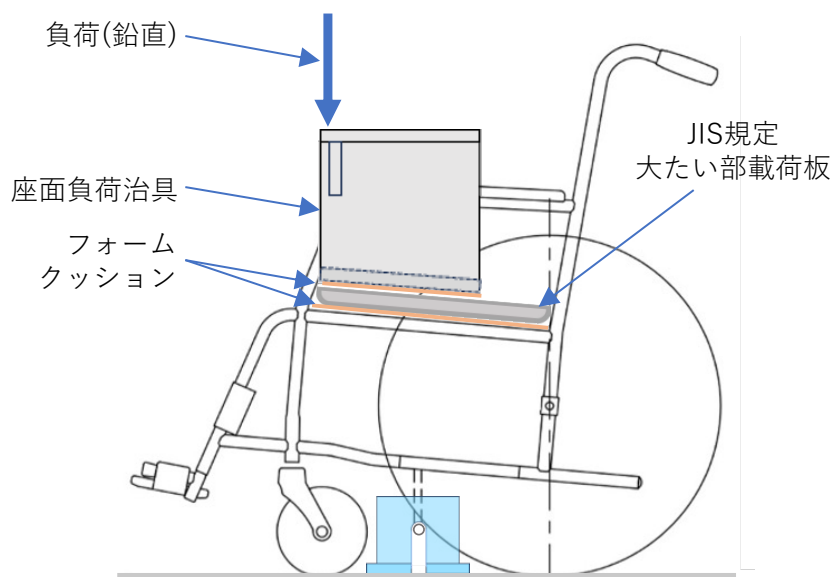
「車椅子簡易固定システム対応※」

※車椅子簡易固定標準化コンソーシアムガイドラインに準拠しています

正面衝突模擬試験時の車椅子への負荷を再現する静的試験法*

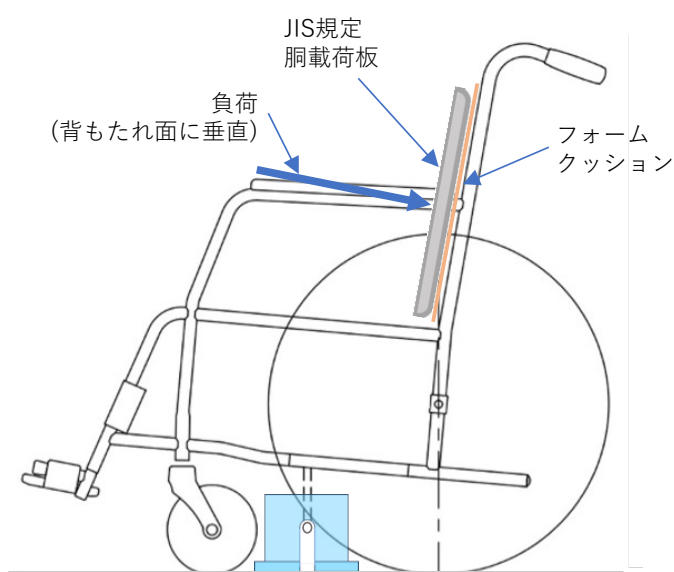
背面負荷試験

- ・下図の通り、座面負荷治具等を介して座面に鉛直に12 kNの負荷を行う。
- ・車椅子の主要部材の分離破断の有無を調べ、分離破断がなければ、スレッド試験時の負荷に耐えられる車椅子と推定可能である。



背面負荷試験

- ・下図の通り、背もたれに、負荷装置に接続したJIS規定の胴載荷板をクッションフォームを介して背もたれに面直に2.5kNまで負荷する。
- ・車椅子の主要部材の分離破断の有無を調べ、分離破断がなければ、スレッド試験時の負荷に耐えられる車椅子と推定可能である。



* 本試験を実施される際には事前にコンソーシアム事務局に連絡をお願いします。
試験実施にあたっての詳細条件や試験設備等の相談させていただきます。